



子どものかかりやすい病気の一覧

	病名	感染経路 【潜伏期間】	主症状	感染しやすい期間※	登園のめやす
登園には 医師が記入する 意見書 が必要で す	麻疹 (はしか)	空気・飛沫 ・接触 【8～12日】	・発症初期…高熱、咳、鼻水、目の充血、目やに ・頬の内側に白い水疱(コプリック斑) ・全身に細かく赤い発疹が広がる	発症の1日前から発しん出現後の4日後まで	解熱後3日を経過していること
	インフルエンザ	飛沫 【1～4日】	・急に高熱が出る・関節痛、寒気、咳、頭痛、吐き気、下痢などさまざまな症状が出る場合がある	症状がある期間(発症前24時間から発病後3日程度までが最も感染力が強い)	発症した後5日経過し、かつ解熱した後3日経過していること
	風しん (三日ばしか)	飛沫・接触 【16～18日】	・発熱(2～3日で下がる) ・淡黄色の発しんが全身に広がる(3～4日で消える) ・耳の後ろのリンパ腺が腫れる	発しん出現の7日前から7日後くらい	発しんが消失していること
	水痘 (水ぼうそう)	空気 飛沫 接触 【14～16日】	・初めはかゆみのある赤い発しんが少しでき、その後全身に広がる ・頭部や耳の中、陰部まで広がり、水疱になり、その後かさぶたになる	発しん出現1～2日前からかさぶた形成まで	すべての発しんがかさぶたになっていること
	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	飛沫・接触 【16～18日】	・熱と耳下腺(耳の下あたり)が最も多く、顎下腺(顎の下あたり)、舌下腺の腫れや痛み。 耳下腺の腫れは片側→反対側が腫れることが多い。	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の膨張が発現してから5日経過し、かつ全身状態が良好になっていること
	結核	空気 【3か月～数十年】	・微熱、せき、疲れやすさ、食欲不振、顔色の悪さなど	—	医師により感染のおそれがないと認められていること
	咽頭結膜熱 (プール熱)	飛沫・接触 【2～14日】	・高熱、扁桃腺炎、結膜炎	発熱、充血等の症状が出現した数日間	発熱、充血等の主な症状が消失した後2日を経過していること
	流行性角結膜炎 (はやり目)	接触 【2～14日】	・目が充血、目やに ・目に膜が張ることもある ・片方の目で発症した後、もう一方の目に感染することがある	充血、目やに等の症状が出現した数日間	結膜炎の症状が消失していること
	百日咳	飛沫・接触 【7～10日】	・特有なせき(コンコンとせき込んだ後、ヒューという笛を吹くような音を立てて息を吸うもの)が特徴	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有な咳が消失していること、または5日間の適正な抗菌薬による治療が終了していること
	腸管出血性大腸菌 感染症 (O-157など)	経口・接触 【O-157は 3～4日】	・水様下痢便、腹痛、血便 ・無症状の場合がある	—	2回以上連続で便から菌が検出されなくなり、全身状態が良好であること
	急性出血性結膜炎	飛沫・接触 【平均24時間又は 2～3日と差あり】	・強い目の痛み、目の結膜(白眼の部分)の充血、結膜下出血、目やに、角膜の混濁など	—	医師において感染のおそれがないと認められていること
	侵襲性髄膜炎菌感染症 (髄膜炎菌性髄膜炎)	飛沫・接触 【4日以内】	・発熱、頭痛、嘔吐	—	医師において感染のおそれがないと認められていること

※感染しやすい期間を明確に提示できない感染症については(—)としています